

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
518	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>	
<p>Alcohol consumption over time and risk of lymphoid malignancies in the California Teachers Study cohort.                      カリフォルニア教員研究コホートにおける経時的な飲酒量とリンパ系腫瘍のリスクについて</p>	
<b>執筆者</b>	
Chang ET, Clarke CA, Canchola AJ, Lu Y, Wang SS, Ursin G, West DW, Bernstein L, Horn-Ross PL	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
Am J Epidemiol. 2010 Dec 15;172(12):1373-83	
<b>キーワード</b>	
飲酒、コホート研究、リンパ腫、非ホジキン病、多発性骨髄腫	
<b>要 旨</b>	
<p><b>背景：</b>                      いくつかの先行研究では、飲酒量と非ホジキンリンパ腫、多発性骨髄腫のリスクは負の関連があるとしている。しかし、ほとんどの研究が後ろ向き研究であり、常飲者と間欠的飲酒者・過去飲酒者を区別しているものは少ない。</p> <p><b>方法：</b>                      飲酒歴が非ホジキンリンパ腫、多発性骨髄腫のリスクに影響するのか調べるため、102,721名の女性の登録があり、1995-1996年から2007年12月31日までに496名がB細胞性非ホジキンリンパ腫、101名が多発性骨髄腫と診断された、前向きコホート研究であるカリフォルニア教師研究を調査した。罹患率比と95%信頼区間はCox比例ハザードモデルを用いて試算した。</p> <p><b>結果：</b>                      すべてのタイプのB細胞性非ホジキンリンパ腫と多発性骨髄腫のリスクは、18-22歳、30-35歳時の自己申告によるビール、ワイン、リカーなどの飲酒歴とベースライン時以前の飲酒期間と関連しなかった。しかし、非ホジキンリンパ腫のサブタイプは飲酒量と関連していた。一方、ベースライン時に過去飲酒者であった女性は、すべてのB細胞性非ホジキンリンパ腫 [rate ratio=1.46, 95%CI:1.08-1.97]、濾胞性リンパ腫 [rate ratio=1.81, 95%CI:1.00-3.28]のリスクが高かった。</p> <p><b>結論：</b>                      過去飲酒者でリスクが高いことは、現在飲酒者と過去飲酒者を区別することの重要性を示すものであるし、アルコールそのものよりむしろ、飲酒を止める要因がB細胞性非ホジキンリンパ腫のリスクを増加させるのかも知れない。</p>	